

朝夕ずいぶん寒くなってきました。駅までの道には金木犀のいい香りが漂い、電車のお隣の方からはかすかに樟腦の匂い。季節を感じながら通勤しています。

現在会員登録数 3,398 人さま。次号は 11 月 20 日発行の予定です。／

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

■-----
【1】お知らせ
■-----

● 講演会「しかけ絵本に驚く、楽しむーイギリスの歴史からはじめてー」
参加者募集

講師：三宅興子さん（当財団特別顧問、梅花女子大学名誉教授）

日時：11月28日（土）午後2時～4時

会場：大阪府立中央図書館 2階 多目的室（東大阪市荒本）

定員：40人（申込先着順） 参加費：1500円

主催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

後援：大阪府立中央図書館

お申込み、詳細は ↓ ↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html#021128koenkai

※後日、会場での講演会を撮影・編集したものをインターネット配信します。

11月1日（日）から、外部決済システム「Peatix」で申込受付します。

配信期間：12月22日（火）～令和3年2月25日（木）

視聴料：1500円 定員なし

● 「第37回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集 <締切間近！>

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日（土）です。 詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#37boshu

● 研究紀要の原稿募集 <締切間近！>

当財団では「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第34号の原稿を募集しています。 詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

<クレジットカードでご寄付いただけるようになりました>

詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

● YouTube「大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO」

<https://www.youtube.com/channel/UCgPj7D2ReQ0J03zhMMLfuIA>

公開内容一覧は → http://www.iiclo.or.jp/m1_youtube/index.html

● 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

■ ----- ■
【2】コラム

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

『ぼくのまつり縫い 手芸男子とカワイイ後輩』 神戸遥真/作 偕成社ノベルフリーク 偕成社 2020年9月 対象年齢：中学生以上

あらすじ：中学2年の針宮優人（ゆうと）は、裁縫が好き。入学時には、そのことを隠していたが、文化発表会をきっかけに、被服部に入部した（『ぼくのまつり縫い 手芸男子は好きっていけない』2019年11月）。続刊である本書では、新1年生の小倉さんが入部し、優人がカワイイものが好きと聞いて「ガッカリ」と言ったり、「好きなこと好きにやるんで、基本はほっといてください。」と言ったりする。そして、彼女によってクラブ内の人間関係がぎくしゃくする。

T：1作目が、好きなことをする自分を見出す、または、ためらいを越える作品だとしたら、2作目は他者との葛藤が描かれた作品になっています。作品が重層化したと思いました。

Y：なるほど。この作品はそういうテーマがコミカルに描かれています。

T：「カワイイ」が好きな優人と、タイトルは「カワイイ後輩」だけれど、実は、「カッコイイ」が好きな小倉さん。二人の葛藤が描かれることによって、男女関係なく、自分の好きなことを好きということの大切さが伝わってきます。

Y：裁縫は好きだけれど、人とのコミュニケーションが苦手な小倉さんは、部員全員（4人）で行ったクラフトショップ・モモで、背が高く、ふりふりレースとりボンがたくさんの、ゴスロリの黒いドレスを着ているモモちゃんに「ヘン」という言葉を投げつけます。人の偏見には気づいても、自分の中にある偏見には気づかないという小倉さんの行動は、誰にでもあり得ることだと思いました。

T：店主のモモちゃんは、前作でも本作でもキーパーソン。優人たち中学生を見守り、受け止めてくれます。

Y：小倉さんは、このあと、モモちゃんに謝罪します。読みながら、こういう「イタイ」失敗を重ねるのが中学生らしくて、読者にも共感されるのでは

ないかと思いました。失敗といえば、前作では、男子が苦手な優人の入部を拒絶したサンカク先パイが部長になり、責任を感じすぎてクラブに行けなくなってしまう。クラブの人間関係に悩むというところも、とても中学生らしいと思いました。

T：この作品には悪い人は出てきませんが、それだけに、登場人物の葛藤は、自分自身のこだわりと向き合うように描かれていると思います。

また、「料理」よりも趣味的要素が強い「手芸」が題材になっている点もユニークです。作品内でも手芸の場面が丁寧に描かれ、巻末にも「ハリくんの手芸ノート」があり、手芸の楽しさが伝わってきます。

Y：男子にも女子にも手に取って欲しい作品だと思いました。

* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第62回「十月の末」

幼い子へのまなざし

賢治の作品には、子どもたちが生き生きと躍動する姿をスケッチした物語群があります。「村童スケッチ」と称される作品ですが、本作「十月の末」もその一つです。

物語は、ある農家の一日を描いたもので、朝と夜の二つの部分から構成されています。

嘉ッコは、小学校に入る前の子どもです。

冬の朝、祖母・母とともに豆畑へ出た嘉ッコは、隣の子の善コに会います。二人は耳を塞ぐことで聞こえる音（水の流れるような音）の正体がわからず、母に聞くと「西根山の滝の音」、祖母に聞くと「天の邪鬼の小便の音」と言われます。

そのうち、赤ひげの背の高い西洋人があらわれて早く学校に行けと怒られ、また昨夜は町で飲んだくれて戻って来なかった祖父が帰ってきます。

一方、夜は嘉ッコの兄が、鞆から読本（教科書）を出して音読しているシーンから始まります。兄が読んだ農村の年越し風景（母が手ぎわのだいこんなます／これがいなかのとしこしざかな）に祖父は異を唱え、父は祖父の言葉を笑いながら共感しつつも、読本の思惑を推察します。しかし兄が気分を害していると、突然の雹。「お雷さんだ」という祖父に続けて、「雹だ」という父。表に雹を取りに出た嘉ッコは、白く光って通り過ぎる稲妻に向かい、祖父より聞かされた「山山のへっぴり伯父」（花巻地方の民話に登場する屁の名人＝新潮文庫注解）と叫んで物語は閉じられます。

挿入されるエピソードに、世代が異なる家族の自然や生活上の微妙な受け止めの違いがさり気なく描かれます。暮らしのなかに伝承が深く息づいてきた前近代的な世代（祖父・祖母）と、やや現実的・合理的に思考する世代（父母）。そして学校教育を受け、近代国家の担い手となる子どもたちの世代。農家の一日というありふれた日常を借りながら、そこで描かれているのは「〈近代〉に虐げられながら〈近代〉に浸食され、構造変革を余儀なくされていく地方の姿」（安藤恭子「宮沢賢治『十月の末』論 浸食される〈地方〉」1992年）です。

ところで、興味深いのはこの作品に満ちているさまざまな「音」または「声」そして「歌」です。いまだ学校教育を受けていない嘉ッコの生活は、音に満ち、声や一見非論理的な歌とともにあります。祖父が語った民話上の「山山のへっぴり伯父」は、結末における嘉ッコの叫びで新たな命を宿したようにも感じますが、それは幼い子のみが有する論理、精神的特性といえるのかもしれませんが。（ペ吉）

（本文の引用は、新潮文庫版『新編 風の又三郎』によりました。）

《3》子どもの本の珠玉のことば 16

顔をあげると、まわりに人があつまっていた。白い帽子をかぶり、白衣を着てならんでいる姿が、前足をたらししたシロクマの群れに見える。

やさしいシロクマたち。シロクマたちは悲しそうな目でぼくにほほえんだ。どのクマも冷凍室の人口の冬を恋しがっているみたい。

（『シロクマたちのダンス』ウルフ・スタルク/作 菱木晃子/訳 佑学社 1994年3月初出、偕成社 1996年6月 p.43）

この本の主人公ラッセは、ある日、かあさんが不倫相手とデートしている場面に出くわし、ショックを受けて父が働く食肉工場に行きます。とうさんはラッセを歓迎し、ひよいとだきあげ、「ラッセだ！おれの息子だ！」と大きな声で言います。それから、ラッセはとうさんの仕事が終わるまで、ブタ肉にパンチを浴びせて我を忘れず。引用の場面は、とうさんととうさんの仕事仲間がそんなラッセを取り囲んでいる様子が、ラッセの視点から描かれています。

ブタ肉を殴っても怒らず、見守ってくれる白衣を着たとうさんたちたちは「やさし」く、ぼくの怒りや不安を受け止めて「悲しそうな目」でほほえんでくれます。ラッセがとうさんたちの様子を「悲しそう」で「恋しがっている」と受け止めるのは、とうさんの知らないかあさんの秘密を知ってしまったという気持ちとも重なります。

かあさんのことを心から愛していながら、無口で不器用なとうさんはかあさんのことを少しも疑っていません。ところが、かあさんは、妊娠しており、ラッセを連れて、不倫相手の歯医者トシュテンソンと住むことになります。とうさんとは全く異なるタイプの義父、トシュテンソンと出会ったラッセは、自分ととうさんとの関係を見つめ直します。

ラッセの葛藤をユーモラスに描きながら、周りの大人を含めて人生の不条理を感じずにはいられないこの作品は、今でも心に響きます。そして、2017年に亡くなった著者のウルフ・スタルクの魅力は、最後の作品である『おじいちゃんとの最後の旅』（キティ・クローザー/絵 菱木晃子/訳 徳間書店 2020年9月）までずっと続きます。（Y）

《4》行って来ました！

東京・出版クラブビル3階ライブラリーで12月25日（予定）まで開催される図書展「となりの国への扉―日中韓共同プロジェクトと絵本作家からのメッセージ」（日本国際児童図書評議会（JBBY）企画・構成）に行ってきました。

第一部は韓国の絵本のコーナーです。韓国の絵本作家11人の邦訳本と原書、未邦訳の本が83冊、それぞれの作家のメッセージパネルとともに展示されています。本はケースに入ったキム ジミンのしかけ絵本以外、手に取って読むことができます。日本で出版された本と原書で、表紙の違い等を見比べることができます。未邦訳の本は、どれも日本語で読んでみたいと思いました。スージー・リーの『토끼들의 밤』（うさぎたちの夜）や、イ オクベの昔話『오누이 이야기』（兄弟の話）など、絵からおはなしが想像できて楽しめます。

それぞれの作家のメッセージは、この展示のために書かれた絵とことばです。チョ ウンヨンさんの子どもがふたり馬に乗っている絵に「となりのくにのともだち みんなでいっしょにあそぼう」というメッセージがひらがなで書かれているのに親しみをおぼえたり、パク ジョンチェさんの「お元気ですか？ いつも日本を恋しく思っています…」というメッセージを見て、昨夏に来日いただいたことを懐かしく思い出したりしました。

第二部の日中韓共同プロジェクトの展示は、国際児童図書評議会（IBBY）の日本支部であるJBBYと、中国のCBBY、韓国のKBBYが共同のプロジェクトを立ち上げ、お互いの国で本を紹介しています。今回は環境をテーマに、韓国の『풀친구』（しばふのともだち）や、中国の『咳咳咳』（ゴホンゴホン）など、各国5冊ずつ展示されていました。

11月5日（予定）からの後期日程では、第一部が韓国から中国の絵本に展示替えされるそうで、そちらも見てみたいと思いました。（K）

■ ----- ■

【3】全国のイベント紹介

■ ----- ■

●「ブラチスラバ世界絵本原画展 こんにちは！チェコとスロバキアの新しい絵本」

会 期：開催中～12月13日（日） 月曜休館

時 間：9：00～17：00 観覧料：有料

場 所：奈良県立美術館

主 催：奈良県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベントの開催内容が変更される可能性があります。最新情報は主催者へお問い合わせください

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■

【 4 】 プレゼント

■ ----- ■
今号のコラム《 1 》「この本読んだ？」で紹介しました『ぼくのまつり縫い 手芸男子とカワイイ後輩』を 1 名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ N0.122 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は 11 月 10 日 (火)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます /

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

— | — | — | — | — | — | — | — | — | — |

新しい手帳を購入しました。まずは、15 打数 1 安打でやっと手に入れたチケットの 1 年遅れのその日をチェック。五輪に限らず、海外渡航を伴う様々な国際交流事業に関係者は頭を悩ませておられるでしょうが、ワクチン開発などにより、早く今までの文化交流が再開されることを願うばかりです。

(T A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメルマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL : 06-6744-0581 FAX : 06-6744-0582 E-mail : office@iiclo.or.jp